

大学番号：私096

注3

[平成27年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

大正大学 文学部 日本文学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人大正大学
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室

職名・氏名 フチョウホ、サ 部長補佐 ・ ヤマダ ヒデキ 山田 英貴
カチョウ 課長 ・ カトウ マキコ 加藤 真紀子

電話番号 03-5394-3025

（夜間） 03-3918-7311

F A X 03-5394-3068

e-mail kikaku@mail.tais.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

文学部

<日本文学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 留意事項等に対する履行状況等	30
7. その他全般的事項	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人大正大学

(2) 大学名 大正大学

(3) 大学の位置

〒170-8470
東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(スギタニ ギジュン) 杉谷 義純 (平成21年3月)	(オカモト センジョウ) 岡本 宣丈 (平成27年3月)	任期満了に伴い平成27年3月30日変更(27)
学長	(カツザキ ユウゲン) 勝崎 裕彦 (平成25年4月)		
学部長	(オオバ アキラ) 大場 朗 (平成25年4月)		
学科長等	未定	(ヤマウチ ヨウ) 山内 洋 (平成27年4月)	学部の学科の設置に伴い平成27年4月1日就任(27)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)

平成27年度に報告する内容 → (27)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
文学部 日本文学科 学士(日本文学)	4年	70人	— 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	70 (-) [-]	—	() []	() []	() []	() []	() []	() []	1.18倍	— 倍	
志願者数	559 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
受験者数	542 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
合格者数	179 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
B 入学者数	83 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	1.18										

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	[-] (-) 83	[-] (-) -	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()		
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()		
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次					/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			[-] (-) 83	[] ()			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	83 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人		0 %
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	0 人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成29年度	人	人		%
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		%
合 計	83 人	0 人					0 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<文学部 日本文学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
第I類科目	学 び の 窓 口	文化の探究 A	1・2・3前後 1→2後		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 山梨有希子 (兼任) → 司馬春英 (兼任)
		文化の探究 B	1・2・3前後 1→2前		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
		文化の探究 C	1・2・3前 1→2前		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 三浦龍昭 (兼任) → 中川仁喜 (兼任)
		文化の探究 D	1・2・3前後 1→2後		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 宮崎洋一 (兼任) → 椎名一雄 (兼任)
		文化の探究 E	1・2・3前後 1→2前		2		1	2				兼 1 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 伊藤雅光 (教授) → 伊藤淑子 (兼任)
		文化の探究 F	1・2・3前後 1→2後		2			1				兼 1 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 伊藤淑子 (兼任) → 大野道夫 (兼任)
		文化の探究 G	1・2・3前後 1→2前		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 元山公寿 (兼任) → 小林靖典 (兼任)
		文化の探究 H	1・2・3前 1→2後		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 元山公寿 (兼任) → 木村周誠 (兼任) 勝野隆広 (兼任) → 曾根宣雄 (兼任)
		文化の探究 I	1・2・3前 1→2前		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
	小計 (9科目)	—	0	18	0	1	2	1	0	0	0	兼 15 兼 12
	社会	社会の探究 A	1・2・3前後 1→2前		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 西郷泰之 (兼任) → 斎藤富由起 (兼任)
		社会の探究 B	1・2・3前後 1→2後		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 青木聡 (兼任) → 斎藤富由起 (兼任)
		社会の探究 C	1・2・3前 1→2前		2							兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 石原康臣 (兼任) → 松崎泰弘 (兼任) 成瀬活雄 (兼任) → 大平雅美 (兼任)
		社会の探究 D	1・2・3後 1→2後		2							兼 1 兼 2 教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 適正人数を考慮し担当者を減 (27) 大平雅美 (兼任)

第I類科目	学 び の 窓 口	社 会	社会の探究E	1・2・3前後 1→2後	2							兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
			社会の探究F	1・2・3前後 1→2前	2								兼 2	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 弓山達也 (兼担) →鈴木晋怜 (兼任)	
			社会の探究G	1・2・3前後 1→2後	2								兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)	
			社会の探究H	1・2・3前後 1→2前	2								兼 1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 松崎慈恵 (兼任) →岡田理樹 (兼任)	
			社会の探究I	1・2・3前後 1→2前	2								兼 2 兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 適正人数を考慮し担当者を追加 (27) 担当 窪田新一 (兼担)	
			小計 (9科目)	—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	兼 12 兼 11	
		自 然	自然の探究A	1・2・3前後 1→2後	2									兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
			自然の探究B	1・2・3前後 1→2前	2									兼 2 兼 1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 高橋秀裕 (兼担) →内田英二 (兼担) 適正人数を考慮し担当者を追加 (27) 担当 松田早苗 (兼任)
			自然の探究C	1・2・3前後 1→2前後	2									兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 中西明美 (兼任) →稲葉明子 (兼任)
			自然の探究D	1・2・3前後 1→2前	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
	自然の探究E		1・2・3前後 1→2後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 原芳生 (兼担) →勝井恵子 (兼任)	
	自然の探究F		1・2・3前後 1→2後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 高橋秀裕 (兼担) →室山哲也 (兼任)	
	自然の探究G		1・2・3前後 1→2前	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)	
	自然の探究H		1・2・3後 1→2前	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)	
	自然の探究I		1・2・3前 1→2後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)	
	小計 (9科目)		—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	兼 10 兼 7		
	地 域	地域連携・貢献論													
		地域連携貢献論A	1前後	2									兼 2	科目名称を変更 (27)	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼 2			

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎技法A-1	1前	2				2 3				適正人数を考慮し担当者を減 (27) 梅澤 (山中) 亜由美 (准教授)
			基礎技法A-2	1後	2				3		兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 山内洋 (准教授) →坂巻理恵子 (兼任) 梅澤 (山中) 亜由美 (准教授) →近藤秀和 (兼任)	
			基礎技法A-3	2前	2				3		兼 3	適正人数を考慮し担当者を減 (27) 山本章博 (准教授)	
			基礎技法A-4	2後	2				2 3			適正人数を考慮し担当者を減 (27) 山本章博 (准教授)	
			基礎技法B-1	1前	2						兼 2		
			基礎技法B-2	1後	2						兼 2		
			基礎技法B-3	2前	2						兼 2		
			基礎技法B-4	2後	2						兼 2		
			基礎技法C	1前 1前後	2						兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 退職により担当者を変更 (27) 馬場敏晃 (兼任) →霜村真 (兼任)	
			英語 1	1前	1						兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) →ピーター ライリー (兼任)	
			英語 2	1後	1						兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) →ピーター ライリー (兼任)	
			英語 3	2前	1						兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) →ピーター アニヨン (兼任)	
			英語 4	2後	1						兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) →ピーター アニヨン (兼任)	
			基礎国語A	1・2・3・4前 2・3前	2						兼 1 兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から担当者を変更 (27) 魚尾孝久 (兼任) →坂巻理恵子 (兼任) 就任辞退のため担当コマ数を振り替え (27) 伊藤優子 (兼任) →坂巻理恵子 (兼任)	
			基礎国語B	1・2・3・4前 2・3後	2				1		兼 1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 大場朗 (教授) →由井 (荻原) 恭子 (兼任)	

第I類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前 1→2前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			基礎数学Ⅱ	1後 1→2前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			基礎数学Ⅲ	2前 2→3前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			基礎数学Ⅳ	2後 2→3前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			基礎社会Ⅰ	1前 1→2前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			基礎社会Ⅱ	1後 1→2前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			基礎社会Ⅲ	2前 2→3前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			基礎社会Ⅳ	2後 2→3前後	2						兼1	教育効果の観点から配当年次を変更(27)		
			小計(23科目)	—	22	12	8	0 +	3	0	0	0	兼13 兼10	
			展開科目	学びの技法		情報処理A-1(ワード)	1・2前 1→2前後	2						兼2
	情報処理A-2(ワード)	未開講 1→2前後				2						兼1 兼2	履修希望者が少数のため未開講(27) 就任辞退のため担当コマ数を振り替え(27) 馬場敏見(兼任)→霜村真(兼任)	
	情報処理B-1(エクセル)	1・2前 1→2前後				2						兼2	教育効果の観点から配当年次を変更(27) 就任辞退のため担当者を変更(27) 馬場敏見(兼任)→藤井佐和子(兼任)	
	情報処理B-2(エクセル)	未開講 1→2前後				2						兼1 兼2	履修希望者が少数のため未開講(27) 就任辞退のため担当コマ数を振り替え(27) 馬場敏見(兼任)→山下裕一郎(兼任)	
	情報処理C(プレゼンテーション)	1・2前 1→2前後				2						兼1 兼2	教育効果の観点から配当年次を変更(27) 教育効果の観点から担当者を変更、担当コマ数を振り替え(27) 近内久美子(兼任)→藤井佐和子(兼任)	
	情報処理D(データベース)	未開講 1→2前後				2						兼1	履修希望者が少数のため未開講(27) 就任辞退のため担当者を変更(27) 馬場敏見(兼任)→後任未定	

第I類科目	学 び の 技 法	展 開 科 目	応用英語 1	2・3前	1	兼 1	
			応用英語 2	2・3後	1	兼 1	
			世界の言語 (中国語) 1	1・2前	1	兼 2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) → 漆紅 (兼任)
			世界の言語 (中国語) 2	1・2後	1	兼 2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) → 漆紅 (兼任)
			世界の言語 (中国語) 3	2・3前	1	兼 2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) → 清水浩子 (兼任)
			世界の言語 (中国語) 4	2・3後	1	兼 2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) → 清水浩子 (兼任)
			世界の言語 (フランス語) 1	1・2前	1	兼 1	
			世界の言語 (フランス語) 2	1・2後	1	兼 1	
			世界の言語 (フランス語) 3	2・3前	1	兼 1	
			世界の言語 (フランス語) 4	2・3後	1	兼 1	
			世界の言語 (ドイツ語) 1	1・2前	1	兼 2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) → 倉西憲一 (兼任) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 宮嶋俊一 (兼任) → 重野純子 (兼任)
			世界の言語 (ドイツ語) 2	1・2後	1	兼 2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) → 倉西憲一 (兼任) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 宮嶋俊一 (兼任) → 重野純子 (兼任)
			世界の言語 (ドイツ語) 3	2・3前	1	兼 1 兼 2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) → 倉西憲一 (兼任) 就任辞退・適正人数を考慮し担当者を減 (27) 宮嶋俊一 (兼任)
			世界の言語 (ドイツ語) 4	2・3後	1	兼 1 兼 2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) → 重野純子 (兼任) 就任辞退・適正人数を考慮し担当者を減 (27) 宮嶋俊一 (兼任)
			世界の言語 (韓国語) 1	1・2前	1	兼 1	
			世界の言語 (韓国語) 2	1・2後	1	兼 1	
			世界の言語 (韓国語) 3	2・3前	1	兼 1	
			世界の言語 (韓国語) 4	2・3後	1	兼 1	
			世界の言語 (スペイン語) 1	1・2前	1	兼 1	
			世界の言語 (スペイン語) 2	1・2後	1	兼 1	
			世界の言語 (スペイン語) 3	2・3前	1	兼 1	
			世界の言語 (スペイン語) 4	2・3後	1	兼 1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 1	1・2前	1	兼 1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 2	1・2後	1	兼 1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 3	2・3前	1	兼 1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 4	2・3後	1	兼 1	

第I類科目	学びの技法 展開科目	英会話 I	1・2前	2							兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任)		
		英会話 II	1・2後	2							兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任)		
		英会話 III	2・3前	2							兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任)		
		英会話 IV	2・3後	2							兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任)		
		中国語会話 I	1・2・3前 2・3前	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
		中国語会話 II	1・2・3後 2・3後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
		ドイツ語会話 I	1・2・3前 2・3前	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
		ドイツ語会話 II	1・2・3後 2・3後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
		文章技法 A	2・3・4前後 3前後	2							兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 白寄まゆみ (兼任) →鈴木治子 (兼任)		
		文章技法 B	2・3・4前後 3前後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
		技法 A (論理力)	2・3・4後 3前後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 伊藤優子 (兼任) →由井 (荻原) 恭子 (兼任)		
		技法 B (自己アピール)	2・3・4後 3前後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
		教養ゼミ (ショートプログラム)	1・2・3・4後	0.5							兼 1	教育の質の向上を目的として科目を追加 (27)		
		小計 (45科目)			62.5							兼 23		
		小計 (44科目)		—	0	62	0	0	0	0	0	0	兼 23	
		留学生科目	日本語研究 A	1・2前後	2			1					兼 1	
			日本語研究 B	1・2前後	2								兼 1	
日本語研究 C	1・2前後		2								兼 1			
日本語研究 D	1・2前後		2								兼 1			
日本語研究 E	1・2前 1・2前後		2								兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)		
日本語研究 F	1・2前後		2								兼 1			
日本語研究 G	1・2前後		2								兼 1			
日本語研究 H	1・2前後		2								兼 1			
日本語研究 I	未開講 1・2前後		2								兼 1	履修希望者が少数のため未開講 (27)		
日本文化研修	1・2前		2								兼 1			
小計 (10科目)		—	0	20	0	0	1	0	0	0	兼 2			

第Ⅱ類科目	専門別部門	日本文学課題研究Ⅰ	3前		2		1	3				兼 1	教育効果の観点から担当者を変更(27) 山本真吾(兼任)→岡田薫(兼任) 教育効果の観点から担当者を変更(27) 山本真吾(兼任)→岡田薫(兼任)
		日本文学課題研究Ⅱ	3後		2		1	3				兼 1	
		日本文学課題研究Ⅲ	4前		2		1	3				兼 1	
		日本文学課題研究Ⅳ	4後		2		1	3				兼 1	
		日本語学課題研究Ⅰ	3前		2		1					兼 1	
		日本語学課題研究Ⅱ	3後		2		1					兼 1	
		日本語学課題研究Ⅲ	4前		2		1					兼 1	
		日本語学課題研究Ⅳ	4後		2		1					兼 1	
	小計(43科目)				86								
	小計(41科目)-		-	0	82	0	3	3	0	0	0	兼 8	
関連教職部門	書写技術研究A	2・3・4前		2								兼 1	
	書写技術研究B	2・3・4後		2								兼 1	
	小計(2科目)		-	0	4	0	0	0	0	0	0	兼 1	
	卒業論文	4通	8			3	3						
	小計(1科目)		-	8	0	0	3	3	0	0	0	0	
合計				-	40	254.5	8	3	3	0	0	0	兼 81 兼 71

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
40	250	8	298	40	253	8	301	
				[0]	[3]	[0]	[3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地の内 21,135.55㎡ は(学)佛教教 育学園から貸与 [貸与期間] H24.4.1から 20年間 届出時における校舎敷 地の算出に誤りがあっ たため(27)			
	校舎敷地	36,416㎡ 41,034㎡	0㎡	0㎡	36,416㎡ 41,034㎡				
	運動場用地	31,429㎡	0㎡	0㎡	31,429㎡				
	小 計	67,844㎡ 72,463㎡	0㎡	0㎡	67,844㎡ 72,463㎡				
	そ の 他	5,036㎡ 287㎡	0㎡	0㎡	5,036㎡ 287㎡				
	合 計	72,880㎡ 72,750㎡	0㎡	0㎡	72,880㎡ 72,750㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	届出時における校舎面 積の算出に誤りがあっ たため(27)			
		46,878㎡ 57,676㎡ (46,878㎡) (57,676㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	46,878㎡ 57,676㎡ (46,878㎡) (57,676㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室 80室 70室	演 習 室 49室	実験実習室 26室 11室	情報処理学習施設 4室 (補助職員 1人) (補助職員 2人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0人)	大学全体 教室等の用途変更・補 助職員退職のため (27)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		日本文学科			7 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	電子ジャーナル、視聴覚資 料は、大学全体で共用 利用実績に基づく受け 入れ計画の変更(27)	
	日本文学科	18,461 [238] 19,303 [249] (17,342 [215]) (18,556 [221])	12,636 [41] 12,600 [41] (11,696 [38]) (11,693 [38])	18 [12] 26 [0] (16 [0]) (25 [0])	21,277 21,504 (20,358) (20,500)	0 (0)	0 (0)		
	計	18,461 [238] 19,303 [249] (17,342 [215]) (18,556 [221])	12,636 [41] 12,600 [41] (11,696 [38]) (11,693 [38])	18 [12] 26 [0] (16 [0]) (25 [0])	21,277 21,504 (20,358) (20,500)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積	閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
		5,656㎡	428		688,167 623,417		書架・書庫の改修のため(27)		
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2,911㎡	野球場、テニスコート				大学全体		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当たり研究費等	400千円	400千円	図書購入費	96,000千円	96,000千円	96,000千円	
	共同研究費等	11,000千円	11,000千円	設備購入費	9,776千円	9,000千円	9,000千円		
	学生1人当たり納付金	第1年次 1,150千円 1,080千円	第2年次 950千円 900千円	第3年次 950千円 900千円	第4年次 950千円 900千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円	学生納付金の改訂のため(27)	
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金(設立宗派・同窓会・寺院関係者)、手数料(入学検定料等)、資産運用収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	大正大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
仏教学部									
仏教学科	4	100	3年次 25	450	学士（仏教学）	1.14	平成22年度	東京都豊島区西 巣鴨三丁目20番 1号	
人間学部									
仏教学科	4	—	—	—	学士（仏教学）	—	平成5年度		平成22年より学生募集停止
社会福祉学科	4	80	—	320	学士（社会福祉学）	1.15	平成5年度		
人間環境学科	4	60	—	240	学士（人間環境学）	1.12	平成23年度		
臨床心理学科	4	110	3年次 5	450	学士（臨床心理学）	1.13	平成21年度		
人間科学科	4	120	3年次 3	456	学士（人間科学）	1.15	平成12年度		平成26年度入学定員増（15人）
教育人間学科	4	65	3年次 3	266	学士（教育人間学）	1.17	平成23年度		
文学部									
表現文化学科	4	—	—	—	学士（表現文化）	—	平成15年度		平成22年より学生募集停止
人文学科	4	70	3年次 3	456	学士（人文学）	1.17	平成22年度		平成25年度入学定員増（40人） 平成27年度入学定員減（△70人）
日本文学科	4	70	—	70	学士（日本文学）	1.18	平成27年度		平成27年度設置70人
歴史学科	4	160	3年次 3	646	学士（歴史学）	1.16	平成15年度		
表現学部									
表現文化学科	4	200	3年次 3	806	学士（表現文化）	1.20	平成22年度		

仏教学研究科								東京都豊島区西 巣鴨三丁目20番 1号	
仏教学専攻									
博士前期課程	2	30	—	60	修士（仏教学）	0.71	平成13年度		
博士後期課程	3	7	—	21	博士（仏教学）	0.75	平成13年度		
人間学研究科									
社会福祉学専攻									
修士課程	2	5	—	10	修士（社会福祉学）	0.60	平成13年度		
臨床心理学専攻									
修士課程	2	18	—	36	修士（臨床心理学）	0.83	平成13年度		
人間科学専攻									
修士課程	2	3	—	6	修士（人間科学）	0.16	平成13年度		
福祉・臨床心理学専攻									
博士後期課程	3	3	—	9	博士（人間学）	0.66	平成13年度		
文学研究科									
宗教学専攻									
博士前期課程	2	5	—	10	修士（文学）	1.60	昭和27年度		
博士後期課程	3	2	—	7	博士（文学）	0.50	昭和32年度		平成26年度入学定員減（△1人）
史学専攻									
博士前期課程	2	10	—	20	修士（文学）	0.40	昭和54年度		
博士後期課程	3	2	—	7	博士（文学）	1.11	昭和54年度		平成26年度入学定員減（△1人）
国文学専攻									
博士前期課程	2	3	—	6	修士（文学）	0.66	昭和27年度		
博士後期課程	3	2	—	7	博士（文学）	0.72	昭和32年度		平成26年度入学定員減（△1人）
比較文化専攻									
博士前期課程	2	3	—	6	修士（文学）	0.33	平成9年度		
博士後期課程	3	2	—	7	博士（文学）	0.11	平成11年度		平成26年度入学定員減（△1人）

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部，学科），大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等，「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には，課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」，短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし，「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<文学部 日本文学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授(文学部長)	オオバ アキラ 大場 朗 (61)	平成27年4月	文化の探究E 基礎国語B 日本文学基礎論 古典文学研究Ⅲ 古典文学研究Ⅳ 日本文学課題研究Ⅰ 日本文学課題研究Ⅱ 日本文学課題研究Ⅲ 日本文学課題研究Ⅳ					古典文学研究Ⅶ 古典文学研究Ⅷ	教育の質の向上を目的として科目を追加(27)
	兼任				兼任	講師	ユイ キョウコ 由井(萩原) 恭子 (43)	平成27年4月	基礎国語B	教育効果の観点から担当者を変更。大場朗教授(文学部長)(専)→由井(萩原) 恭子講師(兼任)(27)
専	教授	イトウ マサミツ 伊藤 雅光 (59)	平成27年4月	文化の探究E 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 日本語基礎論 基礎日本語Ⅲ 基礎日本語Ⅳ 日本語学課題研究Ⅰ 日本語学課題研究Ⅱ 日本語学課題研究Ⅲ 日本語学課題研究Ⅳ	兼任	教授	イトウ ヨシコ 伊藤 淑子 (55)	平成27年4月	文化の探究E	教育効果の観点から担当者を変更。伊藤雅光教授(専)→伊藤淑子教授(兼任)(27)
専	教授	ミスミ ヨウイチ 三角 洋一 (67)	平成27年4月	日本文化総論 古典文学研究Ⅲ 古典文学研究Ⅳ 仏教文学Ⅰ 仏教文学Ⅱ 日本漢文学						
専	准教授	ヤマウチ ヨウ 山内 洋 (54)	平成27年4月	基礎技法A-1 基礎技法A-2 基礎技法A-3 基礎技法A-4 日本語研究A 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 近代文学研究Ⅱ 日本文学課題研究Ⅰ 日本文学課題研究Ⅱ 日本文学課題研究Ⅲ 日本文学課題研究Ⅳ		准教授(日本文学科長)				学部の学科の設置に伴い平成27年4月1日就任(27)
	兼任				兼任	講師	サカマキ リエコ 坂巻 理恵子 (50)	平成27年9月	基礎技法A-2	教育効果の観点から担当者を変更。山内洋准教授(日本文学科長)(専)→坂巻理恵子講師(兼任)(27)
	兼任				兼任	准教授	ハタケヤマ ヨシオ 畠山 仁男 (58)	平成27年4月	基礎技法A-3	教育効果の観点から担当者を変更。山内洋准教授(日本文学科長)(専)→畠山仁男准教授(兼任)(27)

専	准教授	ウメザワ アユミ 梅澤 (山中) 亜由美 (45)	平成27年 4月	文化の探究 F 基礎技法 A-1 基礎技法 A-2 基礎技法 A-3 基礎技法 A-4 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 基礎ゼミナール III 基礎ゼミナール IV 基礎日本文学 IV 近代文学研究 I 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV	兼任	講師	コンドウ ヒデカズ 近藤 秀和 (39)	平成27年 9月	基礎技法 A-2	適正人数を考慮し担当者を減。「基礎技法 A-1」は、他に担当者が2名いるため、支障はない(27)
					兼任	講師	タカハシ ワカギ 高橋 若木 (35)	平成27年 4月	基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。梅澤 (山中) 亜由美准教授(専)→近藤秀和講師(兼任)(27)
専	准教授	ヤマモト アキヒロ 山本 章博 (40)	平成27年 4月	基礎技法 A-1 基礎技法 A-2 基礎技法 A-3 基礎技法 A-4 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 基礎ゼミナール III 基礎ゼミナール IV 基礎日本文学 III 古典文学研究 I 古典文学研究 II 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV					基礎技法 A-2	適正人数を考慮し担当者を減。「基礎技法 A-2」は、他に担当者が2名いるため、支障はない(27)
					兼任	講師	サイトウ トモアキ 齋藤 知明 (31)	平成27年 4月	基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。山本章博准教授(専)→齋藤知明講師(兼任)(27)
									基礎技法 A-4	適正人数を考慮し担当者を減。「基礎技法 A-4」は、他に担当者が2名いるため、支障はない(27)
兼任	教授	カツザキ ユウゲン 勝崎 裕彦 (68)	平成27年 4月	日本文化研修						
兼任	教授	イトウ ヨシコ 伊藤 淑子 (55)	平成27年 4月	文化の探究 F カルチュラルスタ ディーズ総論	兼任	教授	オオノ ミチオ 大野 道夫 (59)	平成27年 9月	文化の探究 F	教育効果の観点から担当者を変更。伊藤淑子教授(兼任)→大野道夫教授(兼任)(27)
									文化の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。伊藤淑子教授(専)→伊藤淑子教授(兼任)(27)
兼任	教授	コジマ トモヨシ 小嶋 知善 (59)	平成27年 4月	基礎日本文学 I 基礎日本文学 II 近代文学研究 III 近代文学研究 IV						
兼任	教授	サイゴウ ヤスユキ 西郷 泰之 (60)	平成27年 4月	社会の探究 A	兼任	講師	サイトウ フユキ 齋藤 富由起 (48)	平成27年 4月	社会の探究 A	教育効果の観点から担当者を変更。西郷泰之教授(兼任)→齋藤富由起講師(兼任)(27)
兼任	教授	アオキ アキラ 青木 聡 (46)	平成27年 4月	社会の探究 B	兼任	講師	サイトウ フユキ 齋藤 富由起 (48)	平成27年 4月	社会の探究 B	教育効果の観点から担当者を変更。青木聡教授(兼任)→齋藤富由起講師(兼任)(27)
兼任	教授	オキクラ トモミ 沖倉 智美 (46)	平成27年 4月	社会の探究 B						
兼任	教授	ユミヤマ タツヤ 弓山 達也 (52)	平成27年 4月	社会の探究 E 社会の探究 F	兼任	講師	スズキ シンレイ 鈴木 晋伶 (54)	平成27年 9月	社会の探究 F	教育効果の観点から担当者を変更。弓山達也教授(兼任)→鈴木晋伶講師(兼任)(27)
兼任	教授	ハヤシダ コウジュン 林田 康順 (49)	平成27年 4月	文化の探究 B						
兼任	教授	シラキ タイチ 白木 太一 (55)	平成27年 4月	文化の探究 C						
兼任	教授	ナルセ カツオ 成瀬 活雄 (51)	平成27年 4月	社会の探究 C	兼任	講師	オオヒラ マサミ 大平 雅美 (54)	平成27年 4月	社会の探究 C	教育効果の観点から担当者を変更。成瀬活雄教授(兼任)→大平雅美講師(兼任)(27)
兼任	教授	ミヤザキ ヨウイチ 宮崎 洋一 (55)	平成27年 4月	文化の探究 D	兼任	講師	シナカ カズオ 椎名 一雄 (62)	平成27年 4月	文化の探究 D	教育効果の観点から担当者を変更。宮崎洋一教授(兼任)→椎名一雄講師(兼任)(27)

兼担	教授	コバヤシ シンジ 小林 伸二 (53)	平成27年 4月	文化の探究 D							
兼担	教授	モトヤマ コウジュ 元山 公寿 (55)	平成27年 4月	文化の探究 G 文化の探究 H	兼任	講師	コバヤシ ジョウテン 小林 靖典 (52)	平成27年 9月	文化の探究 G	教育効果の観点から担当者を変更。元山公寿教授(兼任)→小林靖典講師(兼任)(27)	
					兼担	准教授	キムラ シュウジョウ 木村 周誠 (55)	平成27年 4月	文化の探究 H	教育効果の観点から担当者を変更。元山公寿教授(兼任)→木村周誠准教授(兼任)(27)	
兼担	教授	タカハシ シュウユウ 高橋 秀裕 (60)	平成27年 4月	自然の探究 A 自然の探究 B 自然の探究 F	兼任	教授	ウチダ エイジ 内田 英二 (52)	平成27年 4月	自然の探究 B	教育効果の観点から担当者を変更。高橋秀裕教授(兼任)→内田英二教授(兼任)(27)	
					兼任	講師	ムロヤマ テツヤ 室山 哲也 (61)	平成27年 4月	自然の探究 F	教育効果の観点から担当者を変更。高橋秀裕教授(兼任)→室山哲也講師(兼任)(27)	
兼担	教授	ウチダ エイジ 内田 英二 (52)	平成27年 4月	自然の探究 C					自然の探究 B	教育効果の観点から担当者を変更。高橋秀裕教授(兼任)→内田英二教授(兼任)(27)	
兼担	教授	ハラ ヨシオ 原 秀生 (64)	平成27年 4月	自然の探究 D 自然の探究 E	兼任	講師	カツイ ケイコ 勝井 恵子 (30)	平成27年 4月	自然の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。原秀生教授(兼任)→勝井恵子講師(兼任)(27)	
兼担	教授	ヨシダ トシヒロ 吉田 俊弘 (59)	平成27年 4月	基礎社会 I 基礎社会 II 基礎社会 III 基礎社会 IV							
兼担	教授	シャウマン ヴェ ルナー (66)	平成27年 4月	世界の言語(ドイツ語) 1 世界の言語(ドイツ語) 2 世界の言語(ドイツ語) 3 世界の言語(ドイツ語) 4							平成27年 4月 シャウマンベルナー教授(兼任) 逝去により退職(27)
					兼任	講師	クラウシ ケンイチ 倉西 憲一 (40)	平成27年 4月	世界の言語(ドイツ語) 1 世界の言語(ドイツ語) 2 世界の言語(ドイツ語) 3	逝去により、担当者を変更。シャウマンベルナー教授(兼任)→倉西憲一講師(兼任)(27)	
					兼任	講師	シゲノ ジュンコ 重野 純子 (41)	平成27年 9月	世界の言語(ドイツ語) 4	逝去により、担当者を変更。シャウマンベルナー教授(兼任)→重野純子講師(兼任)(27)	
兼担	准教授	ウスキ エツオ 臼木 悦生 (49)	平成27年 4月	哲学・思想基礎論 地域連携貢献論 A					地域連携・貢献論	科目名称を「地域連携貢献論 A」から「地域連携・貢献論」に変更(27)	
兼担	准教授	テラダ ヨシロウ 寺田 喜朗 (42)	平成27年 4月	宗教文化論							
兼担	准教授	ヤマダ ジュンジ 山田 潤治 (44)	平成27年 4月	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4 表現文化論	兼担	准教授	フシキ カオリ 伏木 香織 (43)	平成27年 4月	表現文化論	教育効果の観点から担当者を変更。山田潤治准教授(兼任)→伏木香織准教授(兼任)(27)	
兼担	准教授	カツノ リュウコウ 勝野 隆広 (54)	平成27年 4月	文化の探究 G 文化の探究 H	兼担	准教授	ソネ ノブオ 曾根 宣雄 (50)	平成27年 4月	文化の探究 H	教育効果の観点から担当者を変更。勝野隆広准教授(兼任)→曾根宣雄准教授(兼任)(27)	
兼担	准教授	ヤマウチ アケミ 山内 明美 (39)	平成27年 4月	文化の探究 I 地域連携貢献論 A						地域連携・貢献論	科目名称を「地域連携貢献論 A」から「地域連携・貢献論」に変更(27)
兼担	准教授	フシキ カオリ 伏木 香織 (43)	平成27年 4月	文化の探究 I						表現文化論	教育効果の観点から担当者を変更。山田潤治准教授(兼任)→伏木香織准教授(兼任)(27)
兼担	准教授	ハタケヤマ ヨシオ 畠山 仁男 (58)	平成27年 4月	基礎数学 I 基礎数学 II 基礎数学 III 基礎数学 IV						基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。山内洋准教授(日本文学科長)(専)→畠山仁男准教授(兼任)(27)

兼任	准教授	モリ ハルヒコ 森 晴彦 (54)	平成27年 4月	技法B (自己ア ピール)		教授					昇格により職名を変更。准教授→ 教授 (27)
兼任	講師	オオノ ジュンコ 大野 純子 (60)	平成27年 4月	日本語研究A 日本語研究B 日本語研究C 日本語研究D 日本語研究E 日本語研究F 日本語研究G 日本語研究H 日本語研究I							
兼任	講師	ナガシマ ジュンドウ 長島 潤道 (43)	平成27年 4月	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4	兼任	講師	ピーター ライリー (67)	平成27年 4月	英語 1 英語 2	教育効果の観点から担当者を 変更。長島潤道講師 (兼任) →ピー ターライリー講師 (兼任) (27)	
					兼任	講師	ピーター アニオン (64)	平成27年 4月	英語 3 英語 4	教育効果の観点から担当者を 変更。長島潤道講師 (兼任) →ピー ターアニオン講師 (兼任) (27)	
兼任	講師	イタニ トモミ 井洞 知美 (49)	平成27年 4月	社会の探究A		准教授					昇格により職名を変更。講師→ 准教授 (27)
兼任	講師	イシハラ ヤスオミ 石原 康臣 (38)	平成27年 4月	社会の探究C	兼任	講師	マツザキ ヤスヒロ 松崎 泰弘 (52)	平成27年 4月	社会の探究C	教育効果の観点から担当者を 変更。石原康臣講師 (兼任) →松崎 泰弘講師 (兼任) (27)	
兼任	講師	ミウラ タツアキ 三浦 龍昭 (40)	平成27年 4月	文化の探究C		准教授					昇格により職名を変更。講師→ 准教授 (27)
					兼任	講師	ナカガワ ジンキ 中川 仁喜 (37)	平成27年 4月	文化の探究C	教育効果の観点から担当者を 変更。三浦龍昭准教授 (兼任) →中 川仁喜講師 (兼任) (27)	
兼任	助教	ヒゲタ タケシ 日下田 岳史 (33)	平成27年 4月	自然の探究A							
兼任	講師	ユイ キョウコ 由井 (荻原) 恭子 (43)	平成27年 4月	基礎技法B-1 基礎技法B-2 基礎技法B-3 基礎技法B-4						教養ゼミ (ショート プログラム)	教育の質の向上を目的として科目 を追加 (27)
										基礎国語B	教育効果の観点から担当者を 変更。大場朗教授 (文学部長) (専) →由井 (荻原) 恭子講師 (兼任) (27)
										技法A (論理力)	就任辞退のため、担当者を 変更。伊藤優子講師 (兼任) →由井 (荻 原) 恭子講師 (兼任) (27)
兼任	講師	コンドウ ヒロコ 近藤 (木村) 裕子 (45)	平成27年 4月	基礎技法B-1 基礎技法B-2 基礎技法B-3 基礎技法B-4							
兼任	助教	ハンソン リーバイ (37)	平成27年 4月	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV							平成27年 3月 ハンソンリーバイ助教 (兼任) 一 身上の都合により退職 (27)
					兼任	講師	シェリー ピアーズ (54)	平成27年 4月	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	退職のため、担当者を 変更。ハンソンリーバイ助教 (兼任) →シェ リーピアーズ講師 (兼任) (27)	
兼任	講師	ホシノ ソウ 星野 壮 (39)	平成27年 4月	文化人類学							
兼任	講師	ミヤザキ ユミ 宮崎 由美 (39)	平成27年 4月	基礎日本語 I 基礎日本語 II 日本語学研究 III 日本語学研究 IV							

兼任	講師	ウオオ ユキヒサ 魚尾 孝久 (65)	平成27年 4月	基礎国語 A 文章技法 A 古典文学研究 V 古典文学研究 VI	兼任	講師	サカマキ リエコ 坂巻 理恵子 (50)	平成27年 4月	基礎国語 A	教育効果の観点から担当者を変更。魚尾孝久講師(兼任)→坂巻理恵子講師(兼任)(27)
兼任	講師	スズキ ハルコ 鈴木 治子 (58)	平成27年 4月	文章技法 B 詩歌研究 I 詩歌研究 II 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV					文章技法 A	就任辞退のため、担当者を変更。白寄まゆみ講師(兼任)→鈴木治子講師(兼任)(27)
兼任	講師	サイトウ ヒデアキ 齋藤 秀昭 (44)	平成27年 4月	近代文学研究 V 近代文学研究 VI						
兼任	講師	ヤマモト シンゴ 山本 真吾 (53)	平成27年 4月	日本語学研究 I 日本語学研究 II 日本語学課題研究 III 日本語学課題研究 IV	兼任	講師	オカダ カオル 岡田 薫 (57)	平成27年 4月	日本語学課題研究 II 日本語学課題研究 IV	教育効果の観点から担当者を変更。山本真吾講師(兼任)→岡田薫講師(兼任)(27)
兼任	講師	ウメタニ ヒロユキ 梅谷 博之 (42)	平成27年 4月	音声学研究 I 音声学研究 II 言語学研究 I 言語学研究 II						
兼任	講師	オカダ カオル 岡田 薫 (57)	平成27年 4月	日本語学課題研究 I 日本語学課題研究 II					日本語学課題研究 II 日本語学課題研究 IV	教育効果の観点から担当者を変更。山本真吾講師(兼任)→岡田薫講師(兼任)(27)
兼任	講師	オオヤ マサノリ 大屋 正順 (32)	平成27年 4月	書写技術研究 A 書写技術研究 B						
兼任	講師	ヤマナシ ユキコ 山梨 有希子 (42)	平成27年 4月	文化の探究 A 社会の探究 E 社会の探究 F	兼任	教授	シバ ハルヒデ 司馬 春英 (64)	平成27年 9月	文化の探究 A	教育効果の観点から担当者を変更。山梨有希子講師(兼任)→司馬春英教授(兼任)(27)
兼任	講師	マツノ トモアキ 松野(我妻)智章 (44)	平成27年 4月	文化の探究 A 文化の探究 B						
兼任	講師	ヤマシタ ユウイチロウ 山下 裕一郎 (43)	平成27年 4月	社会の探究 D 基礎技法 C 情報処理 B-1 (エクセル) 情報処理 B-2 (エクセル)					情報処理 B-2 (エクセル)	就任辞退のため、担当者を変更。馬場敏見講師(兼任)→山下裕一郎講師(兼任)(27)
兼任	講師	オオヒラ マサミ 大平 雅美 (53)	平成27年 4月	社会の探究 D					社会の探究 D	適正人数を考慮し担当者を減。「社会の探究 D」は、他に担当者が1名いるため、支障はない(27)
									社会の探究 C	教育効果の観点から担当者を変更。成瀬活雄教授(兼任)→大平雅美講師(兼任)(27)
兼任	講師	マツザキ ヨシサト 松崎 慈恵 (52)	平成27年 4月	社会の探究 H 社会の探究 I	兼任	講師	オカダ マサキ 岡田 理樹 (56)	平成27年 4月	社会の探究 H	教育効果の観点から担当者を変更。松崎慈恵講師(兼任)→岡田理樹講師(兼任)(27)
兼任	講師	ナカニシ アクミ 中西 明美 (45)	平成27年 4月	自然の探究 C						平成27年 3月 中西明美講師(兼任)→身上の都合により就任辞退(27)
					兼任	講師	イナバ アキコ 稲葉 明子 (38)	平成27年 4月	自然の探究 C	就任辞退のため、担当者を変更。中西明美講師(兼任)→稲葉明子講師(兼任)(27)

兼任	講師	ババ トシミ 馬場 敏見 (55)	平成27年 4月	基礎技法C 情報処理A-1 (ワード) 情報処理A-2 (ワード) 情報処理B-1 (エクセル) 情報処理B-2 (エクセル) 情報処理D (データベース)					平成27年3月 馬場敏見講師(兼任)一身上の都合により就任辞退(27)	
					兼任	講師	シモムラ エイシン 霜村 敬真 (50)	平成27年 4月	基礎技法C 情報処理A-2 (ワード)	就任辞退のため、担当者を変更。 馬場敏見講師(兼任)一霜村敬真 講師(兼任)(27)
					兼任	講師	チカウチ クミコ 近内 久美子 (48)	平成27年 4月	情報処理A-1 (ワード)	就任辞退のため、担当者を変更。 馬場敏見講師(兼任)一近内久美 子講師(兼任)(27)
					兼任	講師	フジイ サワコ 藤井 佐和子 (49)	平成27年 4月	情報処理B-1 (エ クセル)	就任辞退のため、担当者を変更。 馬場敏見講師(兼任)一藤井佐和 子講師(兼任)(27)
					兼任	講師	ヤマシタ ユウイチロウ 山下 裕一朗 (43)	平成27年 4月	情報処理B-2 (エ クセル)	就任辞退のため、担当者を変更。 馬場敏見講師(兼任)一山下裕一 朗講師(兼任)(27)
							後任未定		情報処理D (データ ベース)	就任辞退。春学期は履修希望者少 数により未開講のため支障はな い。秋学期に向け、後任を補充予 定(27)
兼任	講師	イトウ ユウコ 伊藤 優子 (54)	平成27年 4月	基礎国語A 技法A (論理力)				平成27年3月 伊藤優子講師(兼任)一身上の都合 により就任辞退(27)		
					兼任	講師	サカマキ リエコ 坂巻 理恵子 (50)	平成27年 4月	基礎国語A	就任辞退のため、担当コマ数を振 り替え。伊藤優子講師(兼任)一 坂巻理恵子講師(兼任)(27)
					兼任	講師	ユイ キョウコ 由井(萩原) 恭子 (43)	平成27年 9月	技法A (論理力)	就任辞退のため、担当者を変更。 伊藤優子講師(兼任)一由井(萩 原) 恭子講師(兼任)(27)
兼任	講師	シモムラ エイシン 霜村 敬真 (49)	平成27年 4月	情報処理A-1 (ワード) 情報処理A-2 (ワード)				基礎技法C 情報処理A-2 (ワード)	就任辞退のため、担当者を変更。 馬場敏見講師(兼任)一霜村敬真 講師(兼任)(27)	

兼任	講師	フジイ サワコ 藤井 佐和子 (49)	平成27年 4月	情報処理C (プレゼンテーション)					情報処理B-1 (エクセル)	就任辞退のため、担当者を変更。 馬場敏見講師 (兼任) → 藤井佐和子講師 (兼任) (27)
									情報処理C (プレゼンテーション)	教育効果の観点から担当者を変更、担当コマ数を振り替え。近内久美子講師 (兼任) → 藤井佐和子講師 (兼任) (27)
兼任	講師	チカウチ クミコ 近内 久美子 (48)	平成27年 4月	情報処理C (プレゼンテーション)	兼任	講師	フジイ サワコ 藤井 佐和子 (49)	平成27年 4月	情報処理C (プレゼンテーション)	教育効果の観点から担当者を変更、担当コマ数を振り替え。近内久美子講師 (兼任) → 藤井佐和子講師 (兼任) (27)
										情報処理A-1 (ワード)
兼任	講師	ナイトウ エイコ 内藤 栄子 (63)	平成27年 4月	応用英語1 応用英語2						
兼任	講師	ジョ ケイシン 徐 迎新 (59)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 1 世界の言語 (中国語) 2						
兼任	講師	モリヤマ マキコ 森山 真樹子 (70)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 1 世界の言語 (中国語) 2 世界の言語 (中国語) 3 世界の言語 (中国語) 4						平成27年 3月 森山真樹子講師 (兼任) 定年により退職 (27)
					兼任	講師	チイ ホン 漆 紅 (57)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 1 世界の言語 (中国語) 2	退職のため、担当者を変更。森山真樹子講師 (兼任) → 漆紅講師 (兼任) (27)
					兼任	講師	シミズ ヒロコ 清水 浩子 (67)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 3 世界の言語 (中国語) 4	退職のため、担当者を変更。森山真樹子講師 (兼任) → 清水浩子講師 (兼任) (27)
兼任	講師	コウ レイケイ 孔 令敬 (59)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 3 世界の言語 (中国語) 4 中国語会話 I						

兼任	講師	ヤマザキ シロウ 山崎 史郎 (68)	平成27年 4 月	世界の言語 (フランス語) 1 世界の言語 (フランス語) 2 世界の言語 (フランス語) 3 世界の言語 (フランス語) 4						
兼任	講師	ミヤジマ シュンイチ 宮嶋 俊一 (48)	平成27年 4 月	世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2 世界の言語 (ドイツ語) 3 世界の言語 (ドイツ語) 4	兼任	講師	シゲノ ジュンコ 重野 純子 (41)	平成27年 4 月	世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2	平成27年 3 月 宮嶋俊一講師 (兼任) 一身上の都合により就任辞退 (27)
									世界の言語 (ドイツ語) 3 世界の言語 (ドイツ語) 4	就任辞退。適正人数を考慮し担当者を減。「世界の言語 (ドイツ語) 3」、「世界の言語 (ドイツ語) 4」は、他に担当者が1名いるため、支障はない (27)
兼任	講師	クワン チェスク 権 在淑 (60)	平成27年 4 月	世界の言語 (韓国語) 1 世界の言語 (韓国語) 2 世界の言語 (韓国語) 3 世界の言語 (韓国語) 4						
兼任	講師	ミワ 三輪 イルマ (57)	平成27年 4 月	世界の言語 (スペイン語) 1 世界の言語 (スペイン語) 2 世界の言語 (スペイン語) 3 世界の言語 (スペイン語) 4						
兼任	講師	ハシモト タイゲン 橋本 泰元 (61)	平成27年 4 月	世界の言語 (ヒンディ語) 1 世界の言語 (ヒンディ語) 2 世界の言語 (ヒンディ語) 3 世界の言語 (ヒンディ語) 4						
兼任	講師	レスリー コーブランド (41)	平成27年 4 月	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	兼任	講師	ピーター アニョン (64)	平成27年 4 月	英会話 III 英会話 IV	教育効果の観点から担当者を変更。レスリーコーブランド講師 (兼任) →ピーターアニョン講師 (兼任) (27)
兼任	講師	チョウ レイ 張 麗 (55)	平成27年 4 月	中国語会話 II						
兼任	講師	シゲノ ジュンコ 重野 純子 (41)	平成27年 4 月	ドイツ語会話 I ドイツ語会話 II					世界の言語 (ドイツ語) 4	逝去のため、担当者を変更。シャウマンベルナー教授 (兼担) →重野純子講師 (兼任) (27)
									世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2	就任辞退のため、担当者を変更。宮嶋俊一講師 (兼任) →重野純子講師 (兼任) (27)

兼任	講師	シラヨリ マユミ 白寄 まゆみ (54)	平成27年 4月	文章技法 A								平成27年 3月 白寄まゆみ講師 (兼任) 一身上の 都合により就任辞退 (27)
	兼任					兼任	講師	スズキ ハルコ 鈴木 治子 (58)	平成27年 4月	文章技法 A		就任辞退のため、担当者を変更。 白寄まゆみ講師 (兼任) 一鈴木治 子講師 (兼任) (27)
兼任	講師	セキ ヨシヒロ 関 義央 (36)	平成27年 4月	社会の探究 G								
兼任	講師	カセ アスカ 加瀬 明日香 (31)	平成27年 4月	自然の探究 G								
兼任	講師	カナオ ミホ 金尾 美穂 (37)	平成27年 4月	自然の探究 H 自然の探究 I								
						兼任	准教授	クボタ シンイチ 窪田 新一 (60)	平成27年 9月	社会の探究 I		適正人数を考慮し担当者を追加 (27)
						兼任	講師	マツダ サナエ 松田 早苗 (53)	平成27年 9月	自然の探究 B		適正人数を考慮し担当者を追加 (27)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し,大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
3	3	0	0	6	3	3	0	0	6	65	1	—	—
(3)	(3)	(0)	(0)	(6)	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)
 ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません),および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「—」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1			
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成27年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成28年4月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成29年4月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年4月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<文学部 日本文学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学における教員の資質の維持向上は、TSRマネジメント推進機構に置かれている教育開発推進センターを主体として行っている。本センターは、セルフマネジメント教育の開発・推進、基礎学力の向上、共通教育科目の開発推進等を目的としており、学修の目的とその成果を明確化するためにシラバスへの到達目標、事前事後学習内容の記載やルーブリック評価の活用を行っている。

また、これらの情報を集約していることから、教員の個の取り組みを共有し、新たな情報を提供することを目標とした全学的なFDを本センターが主体となり開催した。

あわせて、学長、副学長、学部長、研究科長、事務局長、学長補佐、教務部長及び学生部長をもって構成している教学運営協議会において、審議した教育課程の編成及び運営に関する事項等をコース教務主任連絡会を通じて学科・コースへ連絡することで、全学から学科・コース単位まで重層的なFD活動へつなげており、教員の資質の維持向上のための体制を整えている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○教育開発推進センター（FD活動に関する会議）

春学期2回、秋学期3回、計5回開催。総合IR室長、FD担当教員、教務部長、教務課長が出席。

○コース教務主任連絡会

春学期4回、秋学期7回、計11回開催。委員は概ね毎回出席。

c 委員会の審議事項等

- 教育開発推進センター（FD活動に関する会議）
 - ・FD活動の年間計画・企画
- コース教務主任連絡会
 - ・進級基準について
 - ・カリキュラム大綱・カリキュラム編成方針の検討
 - ・自己点検・自己評価について
 - ・シラバスについて

② 実施状況

a 実施内容

- 「全学教育推進セミナー」FD・SD研修会の開催
- 公開授業の実施
- 学生による「授業評価アンケート」
- 各コースにおける「シラバス検討会」
- 教員による「授業自己点検報告書」「授業アンケートフィードバック」
- 新任専任教員事前研修会

b 実施方法

- 「全学教育推進セミナー」FD・SD研修会の開催
昨今の高等教育動向を理解するため、外部講師等を招聘して全教員・事務職員対象（任意参加）の研修会を定期的に実施。
- 公開授業の実施
人間学部教育人間学科の授業の一部を、教員・事務職員が参観可能な公開授業として実施。
- 学生による「授業評価アンケート」
春学期及び秋学期の授業期間中に、専任及び非常勤教員担当の全授業科目で実施。
- 各コースにおける「シラバス検討会」
コース毎に教員が集まり、DP達成のためのCPとの整合性を取りながら、次年度科目のシラバス内容を検討。
- 教員による「授業自己点検報告書」「授業アンケートフィードバック」
年度末に学生の「授業評価アンケート」結果を踏まえた上で、教員自身の授業自己点検及びフィードバックを実施。
- 新任専任教員事前研修会
新任の専任教員を対象として、学外講師による学生指導に関するワークショップを実施したほか、TSR（大正大学の社会的責任）、教育とそのマネジメント体制、ハラスメント防止、就職支援についての講義を実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○「全学教育推進セミナー」FD・SD研修会の開催

平成26年 4月23日 テーマ：大学ガバナンス改革の審議まとめを受けて

教員：64名 職員：20名

平成26年 5月28日 テーマ：平成26年度 全国の大学入学志願動向、高校訪問時の留意点

教員：73名 職員：17名

平成26年 6月25日 テーマ：私学に求められるもの—これからの大学マネジメント—

教員：67名 職員：9名

平成26年 7月 2日 テーマ：地域から見た大学・地域のための大学 地域連携はウイン・ウイン

教員：37名 職員：14名

平成26年10月29日 テーマ：反転授業

教員：21名

平成26年11月19日 テーマ：共通教育に関するワークショップ

本学1年生の学習意識報告

教員：26名 職員：11名

○公開授業の開催

平成26年7月 7日 教育人間学専門ゼミナールⅠ

平成26年7月11日 教育人間学専門ゼミナールⅠ

平成26年7月14日 キャリア教育概論

平成26年7月14日 教育人間学専門ゼミナールⅠ・Ⅲ

平成27年1月 8日 教育人間学基礎ゼミナールⅡ

平成27年1月15日 教育人間学基礎ゼミナールⅡ

○学生による「授業評価アンケート」

春学期：7月 秋学期：1月

○各学科における「シラバス検討会」

実施：1月～2月 報告書提出：3月

出席：各学科ごとに専任教員が参加

○教員による「授業自己点検報告書」「授業アンケートフィードバック」

実施：年度末 報告書提出：4月

○新任専任教員事前研修会

実施：平成27年2月25日

出席：平成27年度新任教員6名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成26年度FD活動の実施結果を踏まえ、平成27年度以降も継続的に実施する。

特に、これまで実施してきた全学的なFD活動に加えて、学部・学科・コースの特色や現状に沿ったきめ細やかなFD活動を企画する。これを達成するため、教員からの要望を集約し、今後のFD活動へと反映できるシステム・体制づくりを目指す。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

本学における、学生による授業評価アンケートは、組織的なFD活動の一環として実施。

このアンケートはPDCAサイクルのCheck部分にあたり、授業毎の具体的な効果や問題点を把握し、教育改善に役立てていくことを目的とする。

春学期（7月）及び秋学期（1月）の授業期間中に、専任及び非常勤教員担当の全授業科目で実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

実施済みアンケート用紙を委託事業者が回収し、集計する。

集計結果は教員配付用資料として、委託事業者より各教員へ郵送するとともに、冊子にまとめて刊行の上、教員に配付している。

教育に関する評価部会において実際の教育活動に資する具体的なフィードバック方法の検討や、次年度実施に向けての改善点に関する検討が行われている。

学生をはじめとした社会への公開については、本アンケートの趣旨、実施要項、調査票を明示したうえで、ホームページにおいて集計結果を公表している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

文学部日本文学科は、現代社会が要請する人材像を視野に入れ、複雑化・多様化する現代社会で幅広く活躍できるジェネラリストを育成することを目的として設置した。特に、日本文化の領域に関する豊かな教養と知識を兼ね備え、社会や地域の文化向上や活性化に貢献できる人材は、現代社会が常に必要とするところとなっている。また、豊かな感性とコミュニケーション能力をもってバランスの取れた思考と行動ができる人材養成も急務となっている。そこで、こうした社会的要請（学士力・社会人力）に応えるため、これまで本学が培ってきた長年の伝統と経験を活かしながら、時代に即応した人材育成に取り組むことが本学科の使命であると考えている。

本年度が開設年度であるため、現時点での設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価については困難であるが、平成26年度入試における文学部日本文学科日本語日本文学コースの志願者数が531名であったのに対して、本年度入試の志願者数は559名と増加したことから、本学科が目指す人材育成像と教育目標が、受験生に評価された結果であると考えている。今後は、届出時の教育内容を確実に履行し、上記の設置の趣旨・目的の達成を目指す。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成26年3月 公表

b 公表方法

- ・『大正大学現状と課題2013』として刊行し、学内の教員・職員に配付。
- ・学外に対しては、ホームページ上で公表している。

③ 認証評価を受ける計画

これまでには、平成6年に財団法人大学基準協会の維持会員への申請を行い、平成7年度より維持会員となり、平成13年度に同協会の相互評価を受けてきた。そして平成18年度には、文部科学省の認証を受けた評価機関のひとつである同協会による大学評価（認証評価）を受け、大学基準に適合している旨の結果を得た。さらに、平成25年度に同協会による2度目の大学評価（認証評価）を受け、大学基準に適合していると認定された。認定期間は平成26年4月1日より平成33年3月末日までの7年間である。

今後は、同協会より公表された「大正大学に対する大学評価（認証評価）結果」において指摘された事項について改善計画を策定したうえで、確実に実行していく予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成27年 5月 30日)